

モリシマアカシア *Acacia mearnsii* De Wild.

【概要と選定理由】

落葉性の亜高木。窒素固定能力を持ち他の樹木が育ちにくいやせ山や蛇紋岩地でも生育できるため、それらの場所に成立していた非森林的環境を破壊し、多くの希少種に影響を与える。国の重点対策外来種とされており、世界の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形態】

幹は高さ 7~8m になり、枝は葉と共に短毛が密生する。葉は互生し、長さ 1~2.5cm の柄があり、葉身は 2 回羽状複葉、長さ 6~18cm、羽片は 10~20 対、小羽片は多数つき、線状楕円形、長さ 2~4mm である。花期は 3~6 月、花序は葉腋から出る長さ 6~12cm の枝に 10~30 個ならんでつき、球形で直径 3~6mm、黄色、長さ 2~5mm の柄がある。花は小さく、放射相称である。



17 笠山 2007-5-13 瀧崎撮影

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はオーストラリア。

【国内の分布】

本州、四国。

【県内の分布】

東：13 音羽町長沢（瀧崎 19147, 2001-9-28T）、14 相良町（堀田喜久 208, 1991-6-7）、15 大岩町（瀧崎 17644, 2000-4-25T）、17 高松町（芹沢 84072, 2009-5-26）18 柵（瀧崎 12062, 1991-5-26）。

西：25 千足町（土場トシ子 399, 1994-4-24）、26 田代町（土場トシ子 392, 1994-4-23）。尾：38b 赤池（渡辺幸子 879, 1993-4-23）、43 西阿野（鳥居ちゑ子 1949, 2001-6-3）、47 大山（村瀬正成 930010, 1993-4-3）、50 守山区上志段味（鳥居ちゑ子 821, 1996-5-4）、51 緑区鳴海町（渡辺幸子 2853, 1996-10-20）。

【生育地の環境／生態的特性】

愛知県では、アカマツが松枯れで失われたあとのやせ山に生育していることが多い。果実は小さく、乾燥すると風で散布される。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

愛知県では第二次世界大戦後、やせ山を緑化する目的で導入されたらしく、それほど多くはないがあちこちで見ることができる。花木として利用されることもあり、時に栽培されている。

【被害状況／駆除策と留意点】

田原市の笠山では、蛇紋岩地に侵入して草地植生を消滅させかけたが、伐採された。まだ、若木が生えてくるので、継続的駆除が必要である。

【関連文献】

自然環境研究センター(編). 2008. 日本の外来生物 p.274. 平凡社, 東京.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

イタチハギ *Amorpha fruticosa* L.

【概要と選定理由】

落葉性低木。種子でも栄養繁殖でも盛んに増え、窒素同化能力があるためやせ地でも生育できる。道路法面などの土止め材として吹き付けられたものが逸出して、しばしば大きな群落を形成している。国の重点対策外来種とされており、日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形態】

茎は根際で分岐し、その後はあまり分枝せず、高さ 3m 程度になる。葉は互生し、長さ 1.5~3cm の柄があり、葉身は奇数羽状複葉、側小葉は 6~13 対つき、楕円形~長楕円形、長さ 15~45mm、幅 6~20mm、先端は通常円頭で微凸端、辺縁は全縁、裏面は多くの開出毛があり、基部は長さ 2~3mm の柄がある。花期は 5~7 月、花序は茎の先端に 2~4 本つき、長さ 8~17cm、花は穂状に密につき、濃紫色、長さ 5~7mm、旗弁はあるが側弁と竜骨弁を欠く。豆果は長さ 7~10mm である。



堀田喜久 742

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。アジア、ヨーロッパ等に帰化している。

【国内の分布】

北海道~琉球。

【県内の分布】

東：2 三沢（瀧崎 27781, 2011-8-8T）、11 作手清岳（瀧崎 35373, 2020-6-6T）、12 富岡（加藤等次 4483, 1994-5-24）、14 西浦町（鈴木美恵子 51, 1992-5-23）、15 東小鷹野（瀧崎 11904, 1990-10-15T）、16 杉山町（井上美保子 864, 1993-6-20）、17 野田（芹沢 55006, 1990-5-22）。西：5 稲武町（鈴木学 1280, 1983-6-14）、20 井ノ口町（芹沢 92287, 2017-6-2）、22 涼堂（塚本威彦 1376, 1994-9-12）、24 山中町（山田初代 535, 1991-5-28）、25 古瀬間町（落合鈴枝 254, 1993-6-4）、26 豊栄町（石川敏 278, 1993-5-30）、29 米河内町（中西善佐子 125, 1992-7-19）、30 竜泉寺町（本多さおり 294, 1994-5-20）、32a 野田町（白井直子 24, 1993-5-28）、33 北山崎町（堀田喜久 742, 1993-9-5）、34b 伏見屋外新田（中村さところ 309, 1993-5-27）、35 奥田町（中村さところ 280, 1993-5-17）。尾：37a 三沢町（日比野修 356, 1992-5-17）、38a 熊張（半田多美子 291, 1992-6-19）、38b 赤池（芹沢 61286, 1992-5-22）、39a 諸輪（濱嶋育子 1085, 2018-5-6N）、39b 沓掛町（浅野守彦 1325, 2002-6-2）、40b 緒川（渡邊麻子 563, 1995-7-7）、41a 大田町（吉鶴靖則 816, 2016-5-8）、42c 武豊町（相羽福松 25, 1979-5-28）、44a 鶴の山（田中郁子 126, 1986-5-31）、45 栗栖（平嶋敏 583, 1989-6-12）、47 大山（日比野修 4462, 1998-5-10）、48 廻間町（山田果与乃 66, 1993-5-28）、49d 西枇杷島町下新町（鈴木幸子 730, 1995-6-8）、50 守山区吉根（鳥居ちよ子 58, 1992-8-2）、51 太白区太白町（渡辺幸子 1635, 1994-6-1）、52 中村区横井町（鈴木秀樹 2088, 1996-6-6）、54 尾西市小信中島（渡辺幸子 930, 1993-5-25）、55 祖父江町（渡辺幸子 6354, 2011-10-21T）、56a 甚目寺町上萱津（鈴木秀樹 2268, 1996-5-30）、57b 八開村（石樽弓恵 547, 1998-7-22）、58a 今（永田晴美 458, 1993-5-17）。東栄町、設楽町（津具地区、旧町域）（小林 2006）、（旧鳳来町、作手地区）（小林 2000）、（小林 2004）からも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

道路の法面や路傍の土手などに多く、横走する地下茎を出して栄養繁殖し、密な群落を作る。丘陵地や山地の自然植生に隣接する裸地に侵入することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本には大正時代に観賞用に渡来したと言われるが、現在帰化しているものは第二次大戦後、砂防用に導入された系統である。上田（1964）は「1958年7月に三河茶臼山で採集し・・・1961年9月には美合追進農場内で、翌年6月には豊橋市飛行場跡でも見た。尾張では瀬戸森林公園に多い」と報告している。最近では高速道路や林道などの法面土留め材として種子が吹き付けられた結果、県内各地に普通に生育している。

【被害状況／駆除策と留意点】

密集した群落を作り、他の植物の生育を阻害する。やせた丘陵地では、ハリエンジュと同様遷移の進行を加速させるおそれもある。

【特記事項】

クロバナエンジュとも呼ばれる。

【引用文献】

- 小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.104. 愛知県.  
小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.127. 東三河農林水産事務所.  
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.155. 愛知県林業試験研究推進協議会.  
上田 豊. 1964. 愛知県西三河の帰化植物(続報). 植物研究集録(8): 4-12.

【関連文献】

北帰化 p.112, 保帰化 p.247, 平帰化 p.102, 平新版 p.293, 農教 I p.122.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

コゴメミズ *Pilea microphylla* (L.) Liebm.

【概要と選定理由】

南アメリカ原産で、広く世界の熱帯に帰化する。国内では沖縄県に早くから帰化している。おそらく温室栽培される植物に伴って、まだ 1 地点での確認であるが愛知県にも持ち込まれた。植村修二氏がグリーンハウスウィードと呼んでいる、温室に持ち込まれた栽培植物に付随して侵入する生態を示す。南西諸島では、陰湿な石灰岩の岩場に繁茂して在来種の成長を妨げる恐れがあり、国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

全体に柔らかく多汁質の 1 年生草本。茎は良く分枝して横に広がる。沖縄では茎が斜上し 20cm に達するものもあるというが、県内のもものは 10cm 未満。葉は大小の 2 型があり、大きいもので 6mm ほどの楕円形。茎や枝にかなり密に対生する。花は葉腋につき、直径 1mm ほどで、緑色～紅緑色。



【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は中～南米。アフリカ熱帯域、インド、東南アジア、ユーゴスラビアに帰化している。

【国内の分布】

東京、神奈川、愛知、高知、鹿児島、沖縄。

【県内の分布】

尾：51 天白区音聞山（渡辺幸子 6701, 2013-11-26）。

【生育地の環境／生態的特性】

名古屋市天白区では、温室の周囲に逸出しているという（渡辺氏私信）。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

沖縄県で比較的早くから帰化が知られており、あちこちで普通に生育している。

【被害状況／駆除策と留意点】

沖縄県内のももの、陰湿な石灰岩の岩場へ侵入しない限り問題になっていない。

【関連文献】

農教 I p.10.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）



アレチウリ *Sicyos angulatus* L.

【概要と選定理由】

つる性の1年生草本で,しばしば河川敷などに大群落を形成し,他の植物を覆い尽くして繁茂する。国の特定外来生物であり緊急対策外来種でもある。日本の侵略的外来種ワースト100にも選定されている。

【形態】

茎はつる性で長さ数mになる。葉は互生し,長い柄があり,葉身は五角形,長さ,幅とも8~20cm,浅く3~5裂し,基部は深く湾入し,辺縁に小さい突起状の鋸歯がある。花期は8~10月,葉腋から各1本の雌花序と雄花序を出し,雌花は短い柄の先に頭状に集まってつき,淡緑色,雄花は長い柄の先に総状につき,黄白色で直径約1cmである。果実は長卵形~楕円形でやや扁平,表面に細く鋭いやや軟質の刺がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。アジア,ヨーロッパなどに帰化している。

【国内の分布】

北海道~琉球。

【県内の分布】

東: 2 佐久間ダム(加藤等次 3987, 1993-10-10), 13 三上町(加藤等次 3828, 1993-9-26), 15 大村町(小林元男 47247, 1993-8-31), 16 豊橋港(瀧崎 10243, 1987-11-23)。西: 5 押山(小林元男 47166, 1993-8-29), 24 寺部町(山崎玲子 603, 1993-8-6), 25 荒井町(畑佐武司 4925T, 2002-8-30), 26 今町(落合鈴枝 883, 1996-8-25), 29 舩越町(中村さとこ 737, 1993-9-5), 32a 逢妻町(中村裕治 1119, 1994-9-24), 33 藤井町(堀田喜久 1871, 1992-8-12), 35 小島町(芹沢 67618, 1993-9-15)。尾: 37a 鹿乗町(日比野修 1632, 1993-8-20), 37b 西大道町(村松 21435, 2002-9-23N), 38a 岩作(半田多美子 831, 1992-10-11), 39b 阿野町(浅野守彦 705, 1999-9-23), 41a 加木屋町(吉鶴靖則 711, 2015-9-10), 41b 佐布里(鳥居ちる子 3488, 2015-9-13), 42b 新野町(芹沢 68407, 1993-10-3), 45 鹿尾(平嶋敏 1038, 1989-9-13), 46a 山那(芹沢 67430, 1993-9-5), 48 気噴町(太田さち子 599, 1993-8-30), 49b 豊山町青山(鈴木幸子 555, 1993-9-28), 50 守山区上志段味(鳥居ちる子 508, 1993-9-17), 51 天白区中砂町(渡辺幸子 656, 1992-9-27), 52 中村区日比津町(鶴岡佐知子 572, 1993-9-21), 53 北方町(芹沢 70906, 1994-9-20), 54 奥町(伊藤静江 1275, 1991-9-6), 55 祖父江町神明津(芹沢 76368, 1999-9-18), 56a 甚目寺町西今宿(鈴木秀樹 3358, 1996-9-16), 57b 八開村(石樽弓恵 908, 1998-10-6)。17 田原市旧町域(小林 2002)からも記録されている。



【生育地の環境/生態的特性】

やや湿った場所を好み,河川敷などに多いが,畑地や林縁などにも生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯/現在の生育状況】

国立環境研究所 HP(侵入生物 DB)によれば1952年に静岡県清水港で確認されたのが最初の記録である。大原(1971)の愛知県植物目録には掲載されておらず,その当時はまだ県内に侵入していなかったと思われる。現在では平野部に広く生育しているが,三河山間部ではまだ稀である。

【被害状況/駆除策と留意点】

概要の項参照。駆除策としては草刈り等が考えられるが,果実の細く鋭い刺は作業の障害になる。

【引用文献】

小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.127. 東三林業振興会.  
大原準之助. 1971. 愛知県国固有林の植物誌 178pp. 名古屋営林局.

【関連文献】

北帰化 p.50, 平帰化 p.90, 平帰化 p.149-150, 平新版 3 p.123, 農教 I p.199.  
国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース (<http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>, 2020 閲覧).  
(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

アメリカミズユキノシタ *Ludwigia repens* J.R.Forst.

【概要と選定理由】

水辺に生える高さ 1m にもなる多年草。茎は平伏し、水面を被うので在来の水生植物の生育に大きな影響を与える。国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

茎は平伏し無毛。下方の節から発根して広がる。葉は対生し、葉身は倒被針形～倒卵形またはさじ形。長さ 3～5cm。幅 1～2cm。両端は尖る。花は 6～9 月に咲き、腋生し花柄はなく長さ 2～3mm の小苞をもち花卉がある。萼片は永存生がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北米東部～西インド諸島。

【国内の分布】

千葉，神奈川，愛知，京都。

【県内の分布】

尾：50 千種区東山公園（渡辺幸子 5409, 2003-7-10）。



【生育地の環境／生態的特性】

水辺に生育。環境の良い水辺へも侵入する。

【侵入の経緯／現在の生育状況】

観賞用の水草として持ち込まれたものが逸出帰化したと考えられる。国内では 1970 年頃から京都府の深泥池に現れた（多紀 2008）。

県内では、現在までに東山公園で記録されただけである。

【被害状況／駆除策と留意点】

水面を被うように繁殖するので、在来の水草に大きな影響を与える可能性がある。

【特記事項】

日本在来のミズユキノシタは葉が互生し、花卉を欠く。また、同じように観賞用に栽培されるセイヨウミズユキノシタは葉が対生するが花卉を欠く。

【引用文献】

多紀保彦. 2008. 財団法人自然環境研究センター『決定版 日本の外来生物』pp.298-299. 平凡社, 東京.

【関連文献】

平嶋化 p.144, 農教Ⅱp.163, N 水草 p.255.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

オオバナコマツヨイグサ *Oenothera grandis* (Britton) Smyth

【概要と選定理由】

コマツヨイグサと同様、路傍や空き地、海岸の砂浜や埋立地、河川の土手などに分布する多年生草本。砂浜や河川敷の草地など、やや自然度の高いところにも侵入する。コマツヨイグサとして国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

多年生草本。茎は基部で多くの枝を分け地を這うように広がり、直径 70cm 程度のパッチ状になる。葉は比較的まばらに互生し、葉身は狭長楕円形、長さ 3~6cm、欠刻状の鋸歯がある。両面に毛が多い。葉腋に長い花柄を持つ花を付ける。花期は長く 4~11 月。夕方に開花し、翌日の午前中には閉じる。花弁は黄色で 4 枚。花径 3~4cm 程度でコマツヨイグサより明らかに大きい。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。南アメリカ、アジア、オーストラリアなどに帰化している。

【国内の分布】

北海道・本州・四国・九州。

【県内の分布】

東：13 行明町 (瀧崎 22115, 2005-11-14T), 15 牛川町 (瀧崎 26820, 2010-6-13T), 16 細谷町 (奈倉智道 50, 1992-5-4), 17 高松町 (瀧崎 30896, 2015-5-9T), 18 伊良湖 (芹沢 62088, 1992-7-16)。西：24 千石町 (山崎玲子 1418, 1996-6-4), 26 駒場町 (芹沢 66054, 1993-6-18), 36 吉良町宮崎 (堀田喜久 236, 1991-6-8)。尾：39a 北山台 (鬼頭弘 187, 1992-8-20), 39b 栄町 (浅野守彦 335, 1999-5-15), 43 大谷 (梅田玲奈 123, 2000-4-21), 44b 篠島 (瀧崎 24941, 2008-11-1T), 46a 南山名 (上山秀郎 152, 1993-5-21), 51 天白区元八事 (渡辺幸子 3926, 1999-6-25), 54 尾西市三条 (川崎マリ子 378, 1992-6-9), 56b 北間島 (芹沢 70003, 1994-7-1), 57b 立田村森川 (伊藤静江 388, 1991-4-26), 58b 野鳥園 (竹原芳子 854, 1995-7-8), 57c 東浜 (須賀瑛文 38175, 1996-6-23)。



芹沢 700003

【生育地の環境／生態的特性】

路傍や畑地、荒れ地など明るい裸地を好む。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	○
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

侵入経路は不明。コマツヨイグサよりは遅れて入ってきたようだが、現在は同じような環境に混在している。

【被害状況／駆除策と留意点】

自然度の高い草地や砂浜に侵入すると、在来種を圧迫する恐れがある。

【特記事項】

コマツヨイグサとの関係は十分に明らかにされていない。日本のものは浅井康宏により 1973 年にコマツヨイグサの変種オオバナコマツヨイグサとして区別され、さらに浅井により 1996 年に独立種オオキレハマツヨイグサ (上記の学名が当てられた) と扱われたが、コマツヨイグサの変種とする見解 (*O. laciniata* var. *grandiflora* (S.Watson) B.L.Rob. 別の変種名 var. *grandis* Britton も当てられることがある) もあり、今後も検討を要する。環境省が上記の学名にオオバナコマツヨイグサの和名を当てたので、より混乱している。

【関連文献】

平帰化 p.147.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)



コマツヨイグサ *Oenothera laciniata* Hill

【概要と選定理由】

路傍や空き地、海岸の砂浜や埋立地、河川の土手などに分布する多年生草本。砂浜や河川敷の草地など、やや自然度の高いところにも侵入する。国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

多年生草本。茎は基部で多くの枝を分け地を這うように広がり、直径 70cm 程度のパッチ状になる。葉は比較的まばらに互生し、葉身は狭長楕円形、長さ 3~6cm、欠刻状の鋸歯があるものから全縁に見える物まで形態には変異が大きい。両面に毛が多い。葉腋に長い花柄を持つ花を付ける。花期は長く 4~11 月。夕方に開花し、翌日の午前中には閉じる。花弁は黄色で 4 枚。花径 2cm 程度で小さい。品種のマルバコマツヨイグサ f. *integrifolia* Jansen et Kloos は区別しなかった。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。南アメリカ、アジア、オーストラリアなどに帰化している。

【国内の分布】

北海道・本州・四国・九州。

【県内の分布】

東：13 臨海緑地(瀧崎 12374,1991-8-1), 14 大塚町(瀧崎 16758,1998-5-4T), 15 岩崎町(瀧崎 15577,1995-5-20T), 16 細谷町(瀧崎 10924,1989-4-2T), 17 波瀬(瀧崎 14389,1993-6-28T), 18 伊良湖岬(瀧崎 1255,1979-3-11T)。西：24 千石町(山崎玲子 1418,1996-6-4), 25 荒井町(畑佐 3597T,2002-5-17), 26 水源町(山崎玲子 2009,1999-7-27), 29 日名本町(杉田一記 2231,22011-9-9), 32a 井ヶ谷町(瀧崎 3198,1979-10-24), 32b 栄(芹沢 92484,2017-6-14), 34a 春日町(芹沢 92162,2017-5-26), 34b 湖西町(芹沢 92317,2017-6-3), 36 宮崎(堀田喜久 236,1991-6-8)。尾：41b 佐布里(村松 28318,2016-7-29), 43 新田町(梅田零奈 204,2000-4-3), 44b 山海(瀧崎 s.n.T,1978-7-26), 45 上野(高木順夫 20255,2011-8-3), 46a 高雄(竹下希望 36,2010-5-1), 46c 布袋下山町(竹下希望 1046,2010-3-15), 48 金ヶ口町(太田さち子 452,1993-8-5), 50 西区八筋町(竹下希望 1438,2010-9-29), 51 天白区井ノ森町(渡辺幸子 3449T,1998-5-14), 52 港区当知町(高木順夫 60,1992-5-16), 54 奥町(遠藤浩三 s.n.T,2008-9-5), 55 日下部町(岩田妙子 尾-912,1988-7-6), 56b 八ツ屋(芹沢 91982,2017-5-1), 57b 立田村森川(伊藤静江 388,1991-4-26), 58b 鍋田干拓(瀧崎 992,1979-1-3T), 58c 竹之郷(芹沢 91716,2017-4-16)。



【生育地の環境／生態的特性】

傍や畑地、荒地など明るい裸地を好む。耐塩性もあると見られ砂浜海岸にもしばしば生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	○
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

侵入経路は不明。埋立地などに多く見られることから、物流に伴ってきた可能性が高い。耐塩性が高いのか、砂浜に多く見られ、河川敷にも侵入する。

【被害状況／駆除策と留意点】

自然度の高い草地や砂浜に侵入すると、在来種を圧迫する恐れがある。

【特記事項】

植物体が大きくなり多くの枝を分けるキダチコマツヨイグサ *Oenothera fruticosa* L. が園芸的に導入されているが、まだ逸出帰化には至っていないと思われる。

【関連文献】

保帰化 p.34, 平帰化 p.221, 平新版 3 p.269, 農教Ⅱ p.287.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

**コフウセンカズラ** *Cardiospermum halicacabum* L. var. *microcarpum* (Kunth) Blume

**【概要と選定理由】**

汎熱帯地域原産の1年生～多年生草本。蔓状になり、他のものに絡みついて成長する。愛知県では名古屋港で1回だけの記録であるが、なぜか愛知県と沖縄県に隔離分布する外来種が多い。母種のフウセンカズラはグリーンカーテンなどにも利用されており、今後野外に定着する危険もある。国の総合対策外来種に選定されている。

**【形態】**

つる性の草本。葉は三角形で2回羽状に深裂する。葉腋から5cmほどもある長い花柄を伸ばし、その先に3～4本の小花柄を散形に出し花をつける。花は小さく径8mm、花弁は白色で不同型の4枚。果実は3稜形で風船のように果被が膨らみ中に種子を包む。果実の稜が翼状になり目立つ。



**【分布の概要】**

**【世界の分布】**

原産地は汎熱帯地域。

**【国内の分布】**

愛知県、東京都（小笠原）、沖縄県。

**【県内の分布】**

尾：52 港区船見町（高木順夫 23058, 2015-9-16）。

**【生育地の環境／生態的特性】**

名古屋港の船見町で1度だけ採集された。翌年、同じ場所に瀧崎が探しに行ったが発見できなかった。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地				
水域				

**【侵入の経緯／現在の生育状況】**

船荷に付随して侵入したものと思われるが、どこからの侵入かは不明。

**【被害状況／駆除策と留意点】**

今のところ愛知県の屋外では限られた場所ではしか生育し続けられないと思われるが、他の熱帯性植物の侵入・定着を予測するためにも注意して観察する必要がある。

**【特記事項】**

母種のフウセンカズラに比べると、果実が小さく稜の翼のはっきりと目立つ。

**【関連文献】**

平帰化 p.51, 平新版 4p.144. 牧野富太郎. 1961. 牧野新日本植物図鑑 p.372. 北隆館, 東京.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)



ニワウルシ *Ailanthus altissima* (Mill.) Swingle

【概要と選定理由】

種子が風散布する落葉高木。成長が早く、裸地に先駆的に侵入する。アスファルトの裂け目に生育し、路面を傷つけることもある。また、攪乱を受ける河川敷にも生育する。シンジュとも呼ばれる。国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

落葉高木。幹は直立する傾向が強く、高さ 10~25m に達する。樹皮は灰白色で縦に浅い割れ目ができる。若枝は赤みを帯びた緑色で、長さ 40~60cm に達する奇数羽状複葉を互生する。小葉は長卵形~披針形で先は尖り 6~10 対。初夏に長さ 30cm ほどの円錐花序をつけ、緑白色の小さな 5 弁花をたくさんつける。果実はねじれた翼状で、中央に平たい種子があり、淡紅色に熟する。果実は風散布される。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は中国北~中部。ヨーロッパ、南北アメリカ、オーストラリアに帰化。

【国内の分布】

埼玉、静岡、広島。本州各地で広がっている。

【県内の分布】

東：12 富岡(瀧崎 24828,2008-10-5T), 15 石巻本町(瀧崎 16486,1997-7-23T), 17 姫島(瀧崎 25693, 2009-7-6T)。西：19 有間(日比野修 1493,1993-7-24), 20 下田(塚本威彦 1937,1996-6-19), 23 西中山(塚本威彦 1520,1995-6-9), 24 寺部町(山崎玲子 445,1993-5-25), 25 花本町(山崎玲子 283,1992-9-7), 26 渡刈町(中村さとこ 573,1993-7-16), 28 宮崎(原田勉 605,1997-5-15), 29 西阿知和町(中西普佐子 840,1993-6-4), 32a 泉田町(中村裕治 640,1994-6-22), 33 小川町(堀田喜久 1615,1992-6-6)。尾：37a 小田妻町(日比野修 1339,1993-6-20), 38b 浅田(村瀬美智子 891,1993-10-11), 39a 諸輪(濱島育子 1153, 1999-6-12N), 39b 沓掛町(渡辺幸子 1652,1994-6-13), 41a 加木屋町(吉鶴靖則 844,2016-5-27), 41b 佐布里(村松 28291,2016-7-4), 46a 山那(上山秀郎 393,1995-5-18), 49c 師勝町高田寺(鈴木幸子 454,1993-5-23), 50 守山区中志段味(鳥居ちゑ子 911,1995-6-11), 51 天白区八幡山(渡辺幸子 997,1993-6-7), 52 港区金城ふ頭(高木順夫 19619T,2010-10-27), 53 光明寺(佐分康之 555,1996-6-16), 54 尾西市東加賀野井(渡辺幸子 1842,1994-9-18), 55 矢合町(水野峰子 346,1994-8-7), 58a 西之森(永田晴美 573,1994-5-20)。



中村さとこ 573

【生育地の環境／生態的特性】

裸地に先駆的に侵入するほか、路面間隙的な生育も見せる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

庭木として植栽されたものから、種子が風で広がっている。

【被害状況／駆除策と留意点】

道路の法面や河川敷に侵入している。矢作川ではヤナギ類の生える河畔林に侵入し、樹林の上に樹冠を広げている。

【関連文献】

平帰化 p.134, 平新版 3 p.309, 農教Ⅱ p.462.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

オランダガラシ *Nasturtium officinale* R.Br.

【概要と選定理由】

多年生草本。流水の水辺に密集した群落を作り、他の植物を圧迫する。国の重点対策外来種に選定されている。2017年に日本に導入されているものに2倍体のオランダガラシと4倍体のコバノオランダガラシ *N. microphyllum* Boenn. ex Rehb.の2種類があり、その雑種ムラサキオランダガラシ *N. × sterile* (Airy Shaw) Oefel.も栽培されていることが報告された(石川・角野 2017)。環境省の指定はこれらを区別しないものと思われる。

【形態】

根茎は匍匐して分枝し、先端から地上茎を出す。地上茎は高さ15~50cmであるがしばしば倒伏して枝を分け、中空で無毛である。葉は互生し、奇数羽状複葉、側小葉は楕円形~長楕円形で長さ0.8~4cm、オランダガラシでは頂小葉は側小葉より大きく卵形~広卵形になる。コバノオランダガラシでは頂小葉と側小葉がともに小さく、ほぼ同じ大きさである。雑種のムラサキオランダガラシは幼植物が紫色になる。クレソンとして売られているもののうち紫色のものがこれに当たる。花期は通常4~6月、花序は茎や枝の先端について総状、花は直径4~5mmで白色の4枚の花弁がある。果実は弓形に曲がり、長さ1~1.5cmである。ムラサキオランダガラシは3倍体で不稔である。

【分布の概要】

【世界の分布】

両種とも原産地はヨーロッパ~西アジア。世界中で栽培され、また逸出している。

【国内の分布】

北海道~九州。

【県内の分布】

オランダガラシ (写真左 日比野修 1764 の一部)

東：12 庭野 (瀧崎 34720, 2019-6-1T), 13 音羽町萩 (瀧崎 17844, 2000-8-10T), 14 大塚町 (瀧崎 16768, 1998-5-4T), 18 日出町 (瀧崎 24355, 2008-8-9T)。西：19 榊野 (日比野修 1764, 1993-9-24), 20 下国谷 (深見弘・畑佐 131, 1994-4-16), 24 百々町 (畑佐 3342T, 2002-5-2), 25 荒井町 (畑佐 3596T, 2002-5-17), 26 今町 (畑佐 1868T, 2001-5-19), 29 奥殿町 (杉田一記 363, 2010-4-29), 30 舞木町 (本多さおり 314, 1994-5-20)。尾：38a 熊張 (半田多美子 1456, 1994-4-19), 42b 板山町 (芹沢 65250, 1993-5-16), 45 犬山 (芹沢 58331, 1991-5-6), 48 細野町 (竹原芳子 344, 1993-10-3), 50 西区浮野町 (芹沢 95157, 2019-5-15), 55 祖父江 (渡辺幸子 4693, 2001-5-15N)。

コバノオランダガラシ (写真右 渡辺幸子 3788 の一部)

尾：48 桜佐町 (芹沢 95085, 2019-4-26), 50 北区平手町 (鳥居ちゑ子 4387, 2019-3-20), 52 中川区富田町 (芹沢 77263, 2001-5-6), 53 北方町 (栗田郁男 262, 1993-6-13), 54 尾西市富田 (渡辺幸子 4641, 2001-4-28T), 55 祖父江町神明津 (渡辺幸子 3788, 1999-4-27)。

ムラサキオランダガラシ

東：2 茶臼山 (小林元男 38379, 1992-7-25), 14 西迫町 (井上美保子 795, 1993-5-23)。西：23 藤岡町上川口 (塚本威彦 1480, 1995-5-30), 25 伊保町 (芹沢 66162, 1993-6-18), 31 深溝 (金子律子 824, 1995-6-23), 36 東幡豆 (壁谷重美子 455, 1994-5-23)。尾：37a 曾野町 (日比野修 301, 1993-5-19), 41b 八幡 (加藤雅憲 265, 1996-5-20), 48 細野町 (竹原芳子 443, 1994-5-12), 50 千種区田代町 (広部栄 23, 1992-6-1), 51 天白区島田 (渡辺幸子 905, 1993-5-16), 57b 八開村給父 (山田茂貴 459, 1993-6-12)。



【生育地の環境／生態的特性】

山間部の清流から平野部の多少汚染の進んだ河川まで、様々な場所に生育し、水辺に密集した群落を作る。ただし極度に汚染された場所では見られず、止水域にもほとんど見られない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○	○	
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

江戸時代後期から在留外国人の食用に栽培されていたらしい。栽培されていたものが逸出して、現在では全国的にも愛知県でも、やや普通に見られる帰化植物となっている。

【被害状況／駆除策と留意点】

本種が密集した群落を作ると、もともとその場所に生育していた植物はほとんど消えてしまう。しかし現在のところ爆発的に増加するという状況ではなく、在来種への影響はやや限定的である。

【引用文献】

石川和佳・角野康郎. 2017. 兵庫県のムラサキオランダガラシ. 分類(17) 179-183. 日本植物分類学会.

【関連文献】

平新版 4 p.67, 農教 I p.107, N 水草 p.258.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

エゾノギシギシ *Rumex obtusifolius* L.

【概要と選定理由】

多年生草本。温帯域に多く、牧草地や畑地の雑草となるだけでなく、同属の多くの種と雑種を作り、その雑種が増殖して、在来種を圧迫する。国の総合対策外来種とされている。

【形態】

茎は直立し、高さ 60～120cm になる。葉は互生し、下部のものは長い柄があり、葉身は楕円形、長さ 18～35cm、幅 8～20cm、先端は鈍頭～鋭頭、基部は心形～切形、辺縁はしばしば波状になり、裏面脈上に短毛がある。茎の上部の葉は次第に小さくなる。花期は 5～6 月、他のギシギシ類より遅く、果時の花被片は三角状卵形で長さ 3.5～5mm、中下部の辺縁に刺状突起がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ。現在では世界中の温帯域に帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。ただし暖地では少ない。

【県内の分布】

東: 3 下田(瀧崎 26014, 2009-9-21T), 4 津具(鈴木学 2233, 1983-9-16), 6 川向(芹沢 55913, 1990-7-25), 7 平山(榊原利修 722, 1992-6-26), 8 門谷(加藤等次 1533, 1992-7-9), 9 乗本(芹沢 59236, 1991-7-24), 11 中河内(芹沢 52441, 1989-7-25), 12 中宇利(瀧崎 28667, 2012-7-21T), 13 音羽町萩(瀧崎 18810T, 2001-7-22), 15 嵩山町(芹沢・芳山朋子 199, 1984-7-27), 16 西赤沢町(瀧崎 30354, 2014-6-28T)。西: 5 稲橋(芹沢 62865, 1992-8-29), 19 伊熊町(芹沢 89321, 2014-7-3), 20 寧比曾岳(水野岸子 551, 1985-8-22), 21 花沢(長谷川朋美 509, 1992-7-4), 22 市場(日比野修 2438, 1994-7-29), 23 上川口(日比野修 638, 1992-8-6), 24 中金町(山崎玲子 316, 1992-9-30), 25 猿投町(磯貝彰宏 20, 1983-7-13), 26 畝部東町(芹沢 66313, 1993-6-24), 27 黒笹(臼井里華 503, 1992-6-25), 28 鳥川(福岡義洋 733, 1990-6-17), 29 古部町(堀田喜久 313, 1991-6-15), 30 桑谷町(本多さおり 582, 1994-8-1), 31 須美(金子律子 777, 1995-6-25), 32a 井ヶ谷町(柴田みゆき 164, 1987-7-24), 36 東幡豆(壁谷重美子 638, 1994-6-30)。尾: 37a 広久手町(芹沢 75762, 1999-6-11), 37b 稲葉町(村松 16966, 1997-6-7), 38a 岩作(村瀬美智子 251, 1992-7-28), 38b 梅森(半田多美子 361, 1992-7-13), 39a 北山台(鬼頭弘 166, 1992-8-13), 39b 杓掛町(浅野守彦 1308, 2002-5-25), 41 加木屋町(岡島錦也 520082, 1992-6-6), 42b 椎ノ木町(芹沢 65217, 1993-5-16), 43 奥条(芹沢 66401, 1993-7-4), 44b 大井(芹沢 61611, 1992-6-12), 45 善師野(平嶋敏 735, 1989-7-8), 46a 山那(芹沢 65784, 1993-6-6), 46b 余野(竹下希望 696, 2010-7-4), 47 大草(村瀬正成 930424, 1993-7-11), 48 細野町(竹原芳子 86, 1993-7-8), 49c 西春町徳重(鈴木幸子 480, 1993-6-8), 49d 新川町下河原(芹沢 78633, 2003-6-22), 50 守山区下志段味(鳥居ちよ子 414, 1993-7-4), 51 天白区元八事(渡辺幸子 375, 1992-7-6), 54 尾西市開明(渡辺幸子 383, 1992-7-7), 55 船橋町(水野峰子 211, 1993-8-8), 56a 七宝町秋竹(芹沢 94218, 2018-6-17)。豊根村(富山地区, 旧村域), 東栄町(小林 2006), 田原市(旧町域, 旧赤羽根町, 旧渥美町)(小林 2002) からも記録されている。



【生育地の環境／生態的特性】

畑地や路傍に生育する。

【侵入の経緯／現在の生育状況】

明治中期に北海道に帰化したと言われている。山間部でよく目につく帰化植物で、平野部では比較的少ない。

【被害状況／駆除策と留意点】

豊田市稲武地区にはノダイオウ *R. longifolius* DC. (国 NT, 県 EN) の河川敷以外では県内唯一の自生地があったが、この場所では本種との雑種が栄養的に著しく繁殖し、ノダイオウは消失してしまった(愛知県 2020)。

【特記事項】

ヒロハギシギシとも呼ばれる。

【引用文献】

- 愛知県 2020. p.160.  
小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.104. 東三林業振興会.  
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.132. 愛知県林業試験研究推進協議会.

【関連文献】

北帰化 p.189, 保帰化 p.355, 平新版 4 p.1044, 平帰化 p.49, 農教 I p.21.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	
湿地				
水域				



ツルギバモウセンゴケ *Drosera adelae* F.Muell

【概要と選定理由】

オーストラリアのクイーンズランド原産の多年生の食虫植物。主に愛好家に栽培されているが、湧水湿地に植え込まれると在来のモウセンゴケ類やタヌキモ類よりも植物体が大きく、それらを圧迫する恐れがある。外来モウセンゴケ属の全種が国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

長さ 15cm 基部の幅 1cm ほどの長被針形の葉を多数根生する。葉の表面には一面に腺毛があり、粘る毛で虫を捕らえて栄養にする。根から不定芽を出し、栄養的に繁殖して増える。花序は立ち上がり、先端が巻いた花茎の外側だけに花をつける鎌形花序。花弁は先が尖り 5 枚で紅紫色。



【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はオーストラリアのクイーンズランド。世界中で広く食虫植物愛好家に栽培される。

【国内の分布】

愛知県。

【県内の分布】

東：16 細谷町（芹沢 53560, 1989-9-25）。

【生育地の環境／生態的特性】

原産地では、河川沿いの湿地や滝の周囲の岩場に生育する。環境の良い湧水湿地に植え込まれると、主に栄養的に繁殖して増え広がる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○	○	
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

愛好家が湧水湿地に投げ込んだものと思われる。熱帯性の植物だが、栽培下では短時間なら霜にあたっても枯れないという。ただし、現在は確認できない。

【被害状況／駆除策と留意点】

現状ではほとんど帰化報告がなく、まだ直接的な問題はあまり起きていない。

【関連文献】

国内の主な文献には記載がない。Kew の HP Plants of the world Online などに情報がある。

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

サスマタモウセンゴケ *Drosera binata* Labill.

【概要と選定理由】

オーストラリア・ニュージーランド原産の多年生の食虫植物。主に愛好家に栽培されているが、湧水湿地に植え込まれると在来のもウセンゴケ類やタヌキモ類よりも植物体が大きく、在来種の生存を圧迫する。外来モウセンゴケ属の全種が国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

直立する茎から多数の無毛の枝を立ち上げる。枝は先端から2~4枚の長さ20cmにも及ぶ、基部が鎌形に曲がった線状の葉を立ち上げる。葉はしばしばその基部近くで分岐する。枝への葉の付き方や葉の分岐の仕方がサスマタのようで和名が与えられた。葉には一面に腺毛があり、粘液を出して虫を捕らえる。花序は主茎から直立する総状花序。5枚の花弁は丸みを帯び白色。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はオーストラリア・ニュージーランド・タスマニア。世界中で食虫植物愛好家に広く栽培される。

【国内の分布】

愛知県。

【県内の分布】

東：15 葦毛湿原（瀧崎 11901, 1990-9-8T）、16 細谷町（瀧崎 11168, 1989-9-25T）。



瀧崎 11168

【生育地の環境／生態的特性】

原産地では、砂質の明るい湿地に生育する。環境の良い湧水湿地に植え込まれると、盛んに繁殖して増え広がる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○	○	
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

愛好家が湧水湿地に投げ込んだものと思われる。豊橋市細谷町の湿地は小規模なものだが、食虫植物愛好家による投げ込みがしばしば見られる。基本的には熱帯系の植物だが、冬期は休眠状態になって過ごすことができる。ただし、除去活動や大規模湿原回復工事が行われたこともあり、現在は消失している。

【被害状況／駆除策と留意点】

豊橋市の葦毛湿原では、1990年頃に投げ込まれ、その後湿原の一部を覆い尽くさんばかりに広がった。葦毛湿原保護の会のメンバーによって除去されたが、数年間は埋土種子由来と思われる生育が見られ、そのたびに除去された。

【関連文献】

国内の主な文献には記載がない。

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

イトバモウセンゴケ *Drosera filiformis* Raf.

【概要と選定理由】

北米大陸東部原産の多年生の食虫植物。主に愛好家に栽培されているが、湧水湿地に植え込まれると在来のモウセンゴケ類やタヌキモ類よりも植物体が大きく、それらを圧迫する恐れがある。外来モウセンゴケ属の全種が国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

長さ 25cm 基部の幅 5mm ほどの線形の葉を多数根生する。葉は展開する前は先が巻いており、シダ植物のフィトルヘッドがほどけると似た成長をする。葉の表面には一面に腺毛があり、粘る毛で虫を捕らえて栄養にする。花序は立ち上がり、先端が巻いた花茎の外側だけに花をつける鎌形花序。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はカナダからフロリダの北米大陸東部。コネチカット州などでは絶滅を報告されている希少種。世界中で広く食虫植物愛好家に栽培される。

【国内の分布】

愛知県。

【県内の分布】

東：15 岩崎町三太郎池（芹沢 55657, 1990-6-21）。



【生育地の環境／生態的特性】

原産地では、粘土質の池の岸や沢沿いの湿地、カナダでは海岸沿いの泥炭湿地に生育する (Mellichamp2015)。環境の良い湧水湿地に植え込まれると、繁殖して増え広がる恐れがある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○	○	
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

愛好家が湧水湿地に投げ込んだものと思われる。熱帯性の植物が多い大型モウセンゴケ類の中では、暖温帯に生育するので、日本国内でも帰化すれば継続的に生育・繁殖すると思われる。確認されている生育地は原産地の環境とよく似ていると思われる。ただし、三太郎池では、現在は消失している。

【被害状況／駆除策と留意点】

現状ではほとんど帰化報告がなく、まだ直接的な問題はあまり起きていない。

【引用文献】

T.L.Mellichamp. 2015. *Drosera filiformis*. Flora of North America. vol.6, p.423. the Flora of North America Association.

【関連文献】

国内の主な文献には記載がない。Kew, Plants of the world Online (<http://www.plantsoftheworldonline.org/>, 2020 閲覧) などに情報がある。

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)



## ナガエモウセンゴケ *Drosera intermedia* Hayne

### 【概要と選定理由】

国内の主な図鑑や国立環境研究所 HP (侵入生物 DB) には北極を取り巻くように北半球に広く分布するとされているが、キュー植物園の HP にある分布情報によると、大西洋～地中海北部を取り巻く様に広く分布する。モウセンゴケと同所的に生育するところでは雑種の形成が報告されている。国の特定外来生物であり、外来モウセンゴケ属の全種として国の重点対策外来種に選定されている。

### 【形態】

茎は短く、地際から葉を放射状に出す。葉には 3cm ほどのはっきりした葉柄がある。葉身は長さ 10mm, 幅 5mm ほどのさじ型。繊毛が密生し粘液で虫を捕らえる。花茎は直立し、高さ 5cm ほど。直径 4mm の白色の 5 弁花をつける。

### 【分布の概要】

#### 【世界の分布】

ヨーロッパからトルコ, 北アメリカ東部からブラジル東部と、アフリカ西岸を除き大西洋を取り巻くように温帯域のミズゴケ類が育つような湿地に広く分布する。

#### 【国内の分布】

岡山県, 愛知県, 千葉県。

#### 【県内の分布】

尾: 37a 平子町 (村松 21755, 2003-7-6), 41a 加木屋町 (林彰一 223, 1999-6-30)。



### 【生育地の環境／生態的特性】

水苔の生えるような湿地に生育し、モウセンゴケよりも明るい環境を好む。5cm 以上の水深でも立ち上がる形状のため生育が可能だが乾燥には弱い。種子の発芽能力は低く、栄養繁殖により個体数を増加させるため、根の切れ端、葉の切れ端などからよく再生する。開花時期は在来のモウセンゴケ類よりも長く、長期にわたって開花する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○	○	
水域				

### 【侵入の経緯／現在の生育状況】

愛好家が湿地に投げ込んだものと思われる。一度侵入すると根絶は難しい。靴に着いた泥などから別の湿地に移動することもある。

現在、県内では少なくとも 7 箇所以上の湿地で確認され、分布を拡大している。また、完全駆除が行われた湿地でも 2, 3 年後に再度個体が確認されるなど、各地で個体数の増加に歯止めがかからない状態となっている。

### 【被害状況／駆除策と留意点】

駆除策を行っても植物体の断片から再生することから数年にわたって駆除が必要であり、一旦無くなったと思われても再生することが多い。モウセンゴケとの間に交雑個体を作り出し、遺伝子汚染をするおそれがある。岡山県で最初に報告があったが愛知県内でも同様である。早期に駆除することが望ましいが、なかなか困難である。

### 【関連文献】

農教Ⅱ p.58. 国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース (<http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>, 2020 閲覧), Kew, Plants of the world Online (<http://www.plantsoftheworldonline.org/>, 2020 閲覧) などに情報がある。

(増田理子・瀧崎吉伸)

ウシオハナツメクサ *Spergularia bocconii* (Scheele) Foucaud ex Merino

【概要と選定理由】

主に内湾の海岸に生育する小型の帰化植物。内湾のほとんど無植生の泥湿地や浜辺から隣接する裸地に生育し、種子が容易に運ばれることから、一度侵入すると定着してはびこる。港湾部や海水浴場の海の家付近など、攪乱を受けた場所に特に侵入しやすい。県内のそのような環境の外来種はあまり多くなく、注意を喚起するためにここで取り上げた。

【形態】

1年生の小型の草本植物。茎は地際で多くの枝を分け、茎の上部は短い腺毛に被われる。茎の下部は濃色に色づくことが多い。花弁は離生し5弁で白～淡紅色。直径5mmほど。萼は短い腺毛に被われ、花弁とほぼ同長。葉は細いが幅があり、長さ1cm。短い托葉を2枚伴い対生する。葉腋から花序枝を分ける。果は熟すると下を向く。

【分布と生態】

【世界の分布】

ヨーロッパの地中海地方原産。日本や北米のカリフォルニア・オレゴンに帰化している。

【国内の分布】

北海道・本州・四国・九州・琉球。

【県内の分布】

東：16 明海町(瀧崎 24216,2008-7-13T),  
17 白谷(小林元男 63388,1998-3-28), 18  
宇津江海岸(小林元男 63575,1998-4-19)。  
西：34 港南町(堀田喜久 5413,1996-8-13),  
36 吉良町白浜(堀田喜久 249,1991-6-8)。  
尾：40b 藤江(中村裕治 521,1994-5-16),  
43 りんくう町(渡辺幸子 6009T,2010-6-9),  
44b 内海(渡辺幸子 5854,2009-4-11T),  
46c 高屋町(福岡義洋 4742,2000-5-5),  
49d 新川町下河原(芹沢 78687,2003-7-  
31), 51 南区滝春町(渡辺幸子 4170,2000-  
4-28), 52 港区当知町(高木順夫 78,1992-  
6-6), 76b 鍋田干拓(瀧崎 988,1979-1-3)。



【生育地の環境／生態的特性】

主に内湾の海岸に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

よく似たウスベニツメクサ *Spergularia rubra* (L.) J. et C.Presl は腺毛がなく、より内陸部にも生育する。

【被害状況／駆除策と留意点】

自然度の高い塩性湿地へも多少侵入するため、注意が必要である。

【関連文献】

農教 I p.48, 平新版 4 p.123.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

**バクヤギク** *Carpobrotus edulis* (L.) N.E.Br.

**【概要と選定理由】**

多肉性の常緑多年生草本。国の重点対策外来種に選定されている。愛知県では一時渥美半島先端部の砂浜にかなり広がって、ハギクソウやハマウツボの群落に影響を与えることが懸念された。現在は台風の影響で砂浜そのものが消失したこともあり減少しているが、そのうちに再度逸出・増加する可能性は大きい。

**【形態】**

茎は太さ 5~7mm 程度で、分枝しながら地表を匍匐する。葉は輪生し、太さ 7~10mm の 3 稜形である。花期は 5~11 月、花は淡紅色で直径 10cm 程度、花弁は多数つき、細い舌状である。野生化している植物が単一系統であるためか、現在のところ結実しない。



瀧崎 22827

**【分布の概要】**

**【世界の分布】**

南アフリカ原産。北米大陸太平洋側や地中海東部に帰化しているという。

**【国内の分布】**

愛知県のほか、千葉県、島根県等でも野生化したものが確認されているらしい。

**【県内の分布】**

東：18 中山町西ノ浜（瀧崎 22827, 2007-5-5T）。

**【生育地の環境／生態的特性】**

耐塩性と耐乾燥性が強く、砂浜から岩礁まで、広く海岸の環境に適応する。海浜の最前線にも生育できる。群落は密で、完全に地面を覆い、砂浜では砂の移動も押さえ、小砂丘を形成する。種子繁殖は認められないが栄養繁殖能力は極めて高く、葉が 1 枚地面に落ちれば発根し定着してしまう。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

**【侵入の経緯／現在の生育状況】**

愛知県では渥美半島の植物園で栽培されていたものが逸出して広がった。2010~2011 年冬の寒波により野生状態の個体は枯死したかと思われたが再生した。その後の台風で大きな群落のあった砂浜が消失した。流された個体群がどこかで新たに定着している可能性はある。フラワーポット等では現在も多くの個体が栽培されている。

**【被害状況／駆除策と留意点】**

伊良湖岬では、シャリンバイの株をバクヤギクが覆い尽くしている状況も見られた。再逸出防止が重要で、そのためには栽培品のしっかりした管理が必要である。

**【特記事項】**

渥美半島の植物園では「オオマツバギク」と呼ばれていたが、インターネット上では通常「バクヤギク」と呼ばれており、和名はそれに従った。

南~東アフリカ原産で近似種の *Delosperma cooperi* (Hook.f.) L.Bolus 園芸名レイコウ(耐寒性マツバギクの商品名で流通する)が、知多半島の常滑市などに帰化している(標本：瀧崎 27615, 2011-6T)。県内では北設楽郡でも屋外で栽培でき、しばしば目にするようになった。逸出状態の個体群も見つかり始めている。こちらは種子繁殖をしており、海岸などに侵入すれば大きな問題となる可能性がある。

**【関連文献】**

文献は少ないが、インターネット上では多くの情報が流されている。

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)



ジュズサンゴ *Rivina humilis* L.

【概要と選定理由】

南米原産の小低木。小笠原や沖縄には早くから帰化しており、路傍や林縁に普通に生育している国の総合対策外来種に選定されている。「内地では温室植物」と言われていたが、近年野外での生育が確認された。

【形態】

高さ 1.5m ほどになる小低木。葉は互生し、長さ 5~10cm 程度の長卵形で基部は切形~心形、先が細く伸びて尖る。縁は波打つが鋸歯はない。茎頂にややまばらに花のつく細長い総状花序をつける。花弁は白く、やや長い花筒の先が 4 裂して平開する。1 心皮 1 子房で、果実は赤く熟し、径 4mm 程度で小さい。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南アメリカ。

【国内の分布】

愛知県、岡山県、宮崎県、東京都（小笠原）、沖縄県

【県内の分布】

尾：52 中村区亀島（芹沢 94652, 2018-9-28）。



【生育地の環境／生態的特性】

名古屋駅近くの植え込みの中に数株生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

温室内ではしばしば栽培されており、それが何らかの理由で逸出したと思われる。秋季には葉が紅葉して落葉するが、2020 年末の時点では枯死せずに存続している。

【被害状況／駆除策と留意点】

熱帯性の植物なので、おそらく生態系に影響を与えるほどには繁殖しないと思われる。しかし、本種のような植物が野生化したというのは驚くべきことで、他の温室植物の逸出の可能性を探るためにも、継続的な観察が必要である。

【関連文献】

平帰化 p.51, 平新版 4 p.144, 農教Ⅱ p.395.

(芹沢俊介・瀧崎吉伸)

ヒメマツバボタン *Portulaca pilosa* L.

【概要と選定理由】

熱帯アメリカ原産の一年生草本。葉の基部に目立つ白色の毛があるので別名ケツメクサとも呼ばれる。観賞用に栽培されるマツバボタンに比べると、葉が扁平で花が著しく小さい。乾いた路傍や海岸の岩礁などに帰化し、国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

全体多肉質。茎は基部からよく分岐し、長さ 30cm ほどになり地を這う。葉は扁平な棒状でほぼ無柄。基部に白色の毛がある。花は茎の先端に数個ずつ付き、径 1cm ほどと小さく、紅紫色の 5 枚の花弁をつける。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は熱帯アメリカ。アフリカ、西アジア、東南アジアに広く帰化する。

【国内の分布】

関東地方以西。

【県内の分布】

東：13 小坂井町篠束（瀧崎 22020, 2005-7-10T), 16 前芝町（瀧崎 17390, 1999-7-24T)。西：24 枝下町（山崎玲子 684, 1993-9-24), 26 水源町（落合鈴枝 897, 1996-8-26), 27 蒔生（臼井里華 1015, 1992-10-18), 29 小美町（芹沢 66650, 1993-7-24), 30 桑谷町（本多さおり 1110, 1994-10-28), 34a 芳川町（中村裕治 1341, 1994-10-25), 34b 川口町（中村さところ 598, 1993-7-28), 35 西奥田町（中村さところ 695, 1993-8-16), 36 鳥羽（芹沢 71151, 1994-9-24)。尾：38a 長湫（半田多美子 873, 1992-10-31), 39a 諸輪（鬼頭弘 247, 1992-10-18), 41b 旭南（渡辺幸子 3000T, 2011-10-25), 43 大野町（山田果与乃 1841T, 2011-10-25), 44b 内海（大西博 132, 1991-10-18), 46a 高雄（芹沢 67420, 1993-9-5), 46c 東町（竹下希望 900, 2010-7-25), 48 玉野町（竹原芳子 285, 1993-9-20), 49a 稲荷町（竹下希望 1594, 2010-10-14), 49d 春日町落合（鈴木幸子 580, 1993-10-23), 50 守山区天子田（鳥居ちる子 134, 1992-9-5), 51 天白区表山（渡辺幸子 411, 1992-7-14), 55 奥田町（水野峰子 209, 1993-8-5), 56b 八ツ屋（芹沢 68112, 1993-9-27), 57 佐屋町善田新田（山田茂貴 716, 1993-8-30), 58a 蟹江本町（永田晴美 619, 1994-9-29)。



【生育地の環境／生態的特性】

良く日の当たる乾いた路傍などに帰化している。

【侵入の経緯／現在の生育状況】

観賞用とは思われず、侵入経路は不明。市街地のあちこちで目にする。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	○
湿地				
水域				

【被害状況／駆除策と留意点】

生育地が裸地状の場所なので県内では現在のところ大きな問題は生じていない。環境省 HP の生態系被害外来種リストによれば、沖縄や奄美でサンゴ由来の石灰岩岩礁に自生するオキナワマツバボタン *Portulaca okinawensis* E.Walker et Tawada やアマミマツバボタン var. *amamiensis* Kokub., Koh Nakam. et Yokota を圧迫している。

【関連文献】

平帰化 p.52, 平新版 4 p.151, 農教 I p.30.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

ウチワサボテン属 *Opuntia* spp.

【概要と選定理由】

多肉性の低木。古くから栽培されているが、もともと砂漠の植物であるだけに、乾燥した荒地に定着しやすい。海浜に侵入したものは、在来の海浜植物を圧迫すると共に、長い棘で人を傷つける危険がある。現在愛知県で確認されているものの多くは長い棘と短い棘を持つ種類である。ウチワサボテン属の全種が愛知県の条例公表種であり、国の重点対策外来種に選定されている。本属の1種センニンサボテン *O. stricta* (Haworth) Haworth は世界の侵略的外来種ワースト 100 にも挙げられている。

【形態】

植物体は高さ 1~2m になる。枝は多肉質で平板状、倒卵形で長さ 30cm 程度になり、表面に鋭く長い棘と短い棘を束生する。花期は 6~10 月、花は茎から直接出て基部は多数の鱗片葉に包まれ、直径 5~6cm、花弁は多数あって細長い舌状、黄色~赤橙色である。果実は長卵形、長さ 4~6cm、表面に多数の小さい棘があり、果肉は甘く食用になる。



瀧崎 24184

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南北アメリカ。約 300 種が知られている。アジア, オセアニア, アフリカ等に帰化している。

【国内の分布】

センニンサボテンが北大東島から(中村ほか 2009), ヒラウチワ *O. vulgaris* Mill.が長野県から(近田ほか 2006) 報告されている。各地に生育していると思われるが、種が特定できる報告は少ない。

【県内の分布】

東：16 前芝町豊川河口 (瀧崎 33440, 2017-9-18T), 18 堀切町 (瀧崎 24184, 2008-7-12T)。渥美半島では堀切町の表浜海岸に点在している。西尾市佐久島でも生育が確認されている。名古屋市内の JR 中央線の軌道敷内にも生育している。海岸の個体群はよく開花結実している。

【生育地の環境／生態的特性】

日の当たる裸地に生育し、特に海岸に多い。枝片は地表に落ちると、容易に発根して独立個体となる。果実は甘く熟し、野鳥やネズミ類が好んで食べる。ムクドリ、ヒヨドリなどによって種子が拡散される。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	○
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

古くから栽培されており、剪定した枝やいらなくなった株が野外に投棄されて逸出したと思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

概要の項参照。今後も栽培者が投棄する可能性があり、啓発の必要性が高い。刈り取りと掘り起こしによる除去は栄養繁殖能力が高いため注意が必要で、除去した植物体は放置せず、可燃ゴミとして処理する必要がある。

【引用文献】

中村剛ほか. 2009. 「世界の侵略的外来種ワースト 100」の 1 種センニンサボテン *Opuntia stricta* (サボテン科) の北大東島への侵入とその防除法. 分類 9: 159-165.  
近田文弘・清水健美・濱崎恭美. 2006. 帰化植物を楽しむ p.176. トンボ出版, 大阪.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)



アフリカホウセンカ *Impatiens walleriana* Hook.f.

【概要と選定理由】

南アフリカ原産の多年生草本。1964年にオランダで1代交配種が作出され、インパチェンスの園芸名で流通している。奄美大島で繁茂し、耐陰性があることから林内への侵入も危惧され、国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

茎は多汁質で柔らかい。良く分岐して高さ30~70cmになる。葉は長さ2~4cm葉柄があり互生。長さ4~10cmの卵形で鋸歯があり、先が尖る。鋸歯の先に水孔があり、早朝には水滴がつく。花は直径4~5cmで花弁は5。頂弁は黄頭、側弁は広いへら型、下の2弁は重なり合って1枚に見える。花柄とほぼ同長の細くて長い距がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はアフリカ南東部。中~南米、アフリカ北部、東南アジア、スリランカなどに帰化する。

【国内の分布】

本州、九州、南西諸島。

【県内の分布】

東：13音羽町長沢（瀧崎 18196, 2000-11-18T）。

【生育地の環境／生態的特性】

霜の当たりにくい湿潤な杉林の縁に生育している。水の豊かな環境を好むが、本州では霜が当たると枯れることが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○	○	
草・岩				
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

栽培されていたものが遺棄されて、生育しているものと思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

現在のところ、県内で大きな問題にはなっていない。音羽町の生育地は、ミドリハカタカラクサ *Tradescantia flumiensis* Vell. 'Viridis'やブライダルベール *Gibasis pellucida* (Martens et Galeotti) D.R.Hunt が繁茂する場所で、花卉園芸農家が不要になった苗を投棄している可能性がある。沖縄県や奄美大島では広がっており、特に奄美で林内への侵入が危惧されている。

【関連文献】

農教Ⅱp.410.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

ツルニチニチソウ *Vinca major* L.

【概要と選定理由】

直径 4cm 程の 5 弁に分かれる大きな青い花を咲かせる，ヨーロッパ原産のつる植物。旺盛につるを伸ばして，接地した節から発根し栄養生殖する。花が美しいので，園芸目的で持ち込まれたものが遺棄されたり逸出したりしている。暖かい海岸林などに入り込み，林床を一面に覆ってしまい，他の植物の生育を著しく阻害する。国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

多年生草本。つるは長く地面を這って，節から発根する。葉は革質で光沢があり，先の尖る卵形で対生。短い葉柄がある。花は対生する葉の片方の葉腋につき，径 4cm。中心部は白く抜けるが 5 裂する花弁は青い。栽培種は葉に白斑が入るものがあるが，野生化したものは斑がないものが多い。

【分布の概要】

【世界の分布】

ヨーロッパ原産。

【国内の分布】

本州，四国，九州。

【県内の分布】

東：12 富岡(瀧崎 31811, 2016-5-21T), 13 音羽町長沢(瀧崎 19362, 2002-2-25T), 15 多米町(瀧崎 G4, 1977-3-20T), 16 細谷町(瀧崎 27485, 2011-5-8T), 18 堀切町(瀧崎 26609, 2010-4-29T)。西：20 下国谷(鈴木万里亜 491, 1995-5-19), 21 蕪木町(芹沢 91177, 2016-6-1), 25 千足町(土場トシ子 419, 1994-4-29), 26 今町(石川敏 255, 1993-5-20), 27 筋生(臼井里華 172, 1992-4-20), 29 筒針町(中西普佐子 283, 1993-3-23), 31 坂崎(金子律子 378, 1995-5-7), 33 尾崎町(堀田喜久 3284, 1994-5-7), 36 佐久島(瀧崎 28267, 2012-4-28T)。尾：38b 赤池(伊藤恭子 63, 1992-4-4), 39a 富士塚(濱島育子 962, 2016-4-6N), 41a 名和町(岡島錦也 411, 1993-4-4), 42a 卵坂(渡邊麻子 37, 1995-3-31), 42b 雁宿町(岡本久美子 61, 2000-4-7), 43 多屋(梅田零奈 100, 2000-4-17), 44b 内海(瀧崎 25121, 2009-4-14T), 45 犬山(佐分康之 321, 1996-5-12), 49d 春日町落合(鈴木幸子 620, 1994-4-18), 50 守山区大森(鳥居ちゆ子 3047T, 2012-4-30), 51 天白区土原(中島ひろみ 519, 1996-4-21), 52 中村区横井町(鈴木秀樹 1850, 1996-4-29), 53 北方町(栗田郁男 238, 1993-6-7), 55 西町(家田晴俊 307, 1995-5-21)。



【生育地の環境／生態的特性】

暖地の林縁・林床に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○	○	○
草・岩		○	○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

カバープランツとして利用され，蔓が勝手に伸びて逸出するだけでなく，不要になり投棄されることも多い。明るい林床に入り込んで群落を形成している。21 豊田市下山地区など，やや冷涼な場所にも見られる。

【被害状況／駆除策と留意点】

豊橋市南部の表浜海岸では，海岸林の林床を埋め尽くして他の植物の生育を著しく阻害している。

【関連文献】

平帰化 p.156, 農教 I p.227.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

オオバアメリカアサガオ *Ipomoea learii* Knight ex J.Paxton

【概要と選定理由】

熱帯アメリカ原産といわれている多年生蔓植物。グリーンカーテンの優れた材料として国内に持ち込まれた。自家不和合性で種子を作らないが、葉柄基部から発根して盛んに栄養繁殖する。つるが 10m 以上も伸び、他の樹木を覆い尽くして枯死させる。国の重点対策外来種に選定されている。ノアサガオの園芸品種（オーシャンブルー）と呼ばれたり、イリオモテアサガオと呼ばれたりしている。学名はとりあえず宮崎県での扱いに従った（宮崎県 2020）。

【形態】

蔓は丈夫で 10m 以上伸びる。葉は大きく、3 深裂するか心形で先が尖る。葉の表面に毛が多く 1 花序の花の数が多い型と、葉の葉面の毛が少なく 1 花序の花の数が少ない型があるが、検討が不十分で明確には区別できない。在来のノアサガオ（花径 6cm）に比べ花が大きく（花径 10cm）、中心部まで色づく。花期が長く、夏から咲き始め、初冬まで咲いていることもある。



【分布の概要】

【世界の分布】

Kew の見解では原産地は熱帯アメリカ。世界各地に帰化している。

【国内の分布】

本州，九州，南西諸島。

【県内の分布】

東：15 大岩町（瀧崎 24926, 2008-10-19T），18 日出町（瀧崎 24371, 2008-8-9T）。尾：37a 南山口町（村松 26284, 2011-10-30），44b 日間賀島（瀧崎 35955, 2020-10-31T），50 名東区新西（鳥居ちる子 3405, 2014-9-24），51 南区宝生町（芹沢 91541, 2018-9-15），52 中川区岩津（高木順夫 19559, 2010-10-21T），58c 木場（瀧崎 33535, 2017-10-7T）。

【生育地の環境／生態的特性】

あまり環境を選ばず、茎の葉柄基部から発根して、接地すると根を張る。蔓は 10m 以上這い上る。

【侵入の経緯／現在の生育状況】

栽培されていたものの蔓が伸び、発根して逸出している。海岸近くの砂地から、鳳来寺山の岩場まであまり環境を選ばず生育する。

【被害状況／駆除策と留意点】

逸出すると制御できない。他の樹木を覆い尽くして枯死させ、生け垣なども蔓の重さで倒壊させる。豊橋市南部では放棄されたウメの木の畑に侵入して、何本もウメを倒している現場も確認した。最近の暖冬のせい、冬でも枯れずに咲いていることがある。葉が 1 枚ついた茎が落ちて、十分に栄養繁殖する可能性があるため、除去の際は注意を要する。葉が完全に枯れた状態で蔓を除去するのが望ましい。

【特記事項】

Kew の HP では *I. learii* を、国内の主な書籍でノアサガオに当てられている *I. indica* (Burm.) Merr. のシノニムとして扱っている。けれども、南アメリカ起源と考えられる *I. learii* と、沖縄県にも分布し東南アジア起源と考えられる *I. indica* が同じものとは考えにくい。

【引用文献】

宮崎県. 2020. 宮崎の外来種. <https://www.pref.miyazaki.lg.jp/shizen/kurashi/shizen/index-02.htm>

【関連文献】

農教 II p.181.

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○	○	
草・岩		○	○	
湿地				
水域				

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）



トウネズミモチ *Ligustrum lucidum* Aiton

【概要と選定理由】

常緑性の小高木。庭園等に植栽される樹木であるが、種子が鳥によって散布され、里山二次林などの半自然的環境に侵入する。幼木は耐陰性が高く、場所によっては低木層で最も目立つ樹種になっており、近い将来林の優占種になるおそれもある。国の重点対策外来種とされており、愛知県の条例公表種でもある。

【形態】

幹は高さ 10m に達する。葉は対生し、長さ 1.5~2cm の柄があり、葉身は長卵形~卵形、長さ 7~11cm、幅 3.5~5cm、辺縁は全縁で透明部があり、先端はやや鋭尖頭、基部はくさび形、表面は深緑色で光沢があり、葉脈は透かすと明るく見える。花期は 6~7 月、花序は円錐形で枝端につき、長さ 13~20cm、花は白色で長さ 3~4mm である。果実はほとんど球形、長さ 6~8mm、黒紫色に熟す。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は中国大陸。

【国内の分布】

本州（埼玉県以西）~九州。

【県内の分布】

東：9 下吉田（瀧崎 29452, 2013-5-25T）、13 御津町（瀧崎 29481, 2013-6-1T）、16 神野ふ頭町（瀧崎 16279, 1997-2-15T）、17 相川町（瀧崎 23700, 2007-11-23T）、18 堀切町（瀧崎 28059, 2011-10-9T）。  
西：24 大見町（山崎玲子 1695, 1998-8-11）、27 打越（畑佐武司 776T, 1999-9-14）、32a 井ヶ谷町（芹沢 75865, 1999-7-2）、33 北山崎町（堀田喜久 519, 1993-8-10）、34b 宮町（畑佐武司 685, 1999-9-11T）。  
尾：37b 新居（村松 21034, 2001-11-4N）40a 月見町（瀧崎 26349, 2010-2-7T）、40b 上今池（渡邊麻子 565, 1995-7-7）、41b 新舞子（畑佐武司 340, 1999-7-20T）、42c 武豊町（畑佐武司 330T, 1999-7-20）、43 蒲池（瀧崎 35330T, 2020-5-23）、50 守山区天子田（鳥居ちゆ子 1791, 2000-6-23）、51 緑区（中島ひろみ 419, 1994-6-15）、52 港区昭和町（高木順夫 9714, 2001-6-23）、58c 新政成（高木順夫 21530, 2012-11-1T）。3 東栄（小林 2006）、14 蒲郡（小林 2004）などからも記録されている。



【生育地の環境／生態的特性】

逸出したものは人家周辺の藪地に多い。草地・半裸地的環境に最初に侵入する樹木の一つであるが、一方でより自然度の高い二次林にも侵入する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○	○	○
草・岩		○	○	○
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

概要の項参照。愛知県では 2000 年代に入ってから特に目立つようになった。

【被害状況／駆除策と留意点】

現在のところは「あちこちで目につく」程度であるが、将来的には里山の植生を変えてしまうおそれがある。鳥の行動は制御できないから、なるべく植えないことが重要である。できれば、不要な場所に生育しているものは伐採・除去することが望ましい。

【特記事項】

在来のネズミモチに似ているが、葉はやや大きくて中央より下で最も幅広くなり、葉脈は明るく見え、花序も大きく、花冠筒部は短く、果実はほぼ球形である。

【引用文献】

小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.150. 東三河農林水産事務所.  
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.183. 愛知県林業試験研究推進協議会.

【関連文献】

平新版 5 p.64, 農教 II p.440.

(芹沢俊介・瀧崎吉伸)

イケノミズハコベ *Callitriche stagnalis* Scop.

【概要と選定理由】

ヨーロッパ原産の水中に生育する多年生草本。水田やクレソン水田の害草となっている。国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

茎は良く分枝して長くのび、密に葉を対生する。節から発根して水底に這う。そこから枝を立ち上げて水面をロゼット様の状態になって被う。在来のみずハコベと異なり水中葉と水上葉の形にほとんど差が無い。葉は長さ5~15mm、倒卵形で先が丸く基部は次第に狭まって葉柄へと流れる。3~5脈が目立ち両面無毛。雌雄同株であるが花は雄花と雌花に分かれ、葉腋に単生する。雄花雌花ともに花被片はなく、2枚の苞葉に包まれ、雄花は1本の雄しべ、雌花は1本の雌しべをもつ。



【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ。北米・南米・オーストラリアに帰化している。

【国内の分布】

山梨県、神奈川県、愛知県に帰化の報告がある。

【県内の分布】

東：12 新城総合公園（瀧崎 35934, 2020-10-26T）。  
西：32b 知立神社（芹沢 92134, 2017-5-26）。

【生育地の環境／生態的特性】

比較的きれいな水の流れや、水田に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○	○	
草・岩				
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

侵入経路は明らかになっていないが、1990年頃山梨県のクレソン栽培田で気づかれた。どこからどうやって持ち込まれたかは分からないが新城市では公園から流れ出す水路に群生している。周辺の水田や水路への拡散が心配である。知立市では神社の池で確認されている。

【被害状況／駆除策と留意点】

水面にロゼット状の密な群落を浮かべるので、沈水植物に大きな影響を与えることが想像される。新城市では、イボクサと共に生育している。

【関連文献】

平帰化 p.170, 農教 I p.266, N水草 p.273.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

オオカワヂシャ *Veronica anagallis-aquatica* L.

【概要】

水辺に生育する冬型1年生草本。在来種のカワヂシャ(国NT)に似ており, また同じような場所に生育するが, より大形で繁殖力も旺盛である。比較的自然度の高い低湿地的環境に侵入することから, 生物多様性への影響が懸念される。国の特定外来生物に指定されており, 緊急対策外来種でもある。

【形態】

茎は直立または斜上し, 大きいものは高さ1mに達する。葉は対生し, 無柄で茎を抱き, 長楕円形, 長さ4~8cm, 幅1~2cm, 先端は鋭頭~鈍頭, 両面無毛, 辺縁の鋸歯は目立たない。花期は4~7月, 茎の上部の葉腋から長さ8~15cmの総状花序を出し, 多数の花をつける。花冠は青紫色, 皿形で深く4裂し, 直径6~8mmである。蒴果は球形, 残存花柱は長さ2~3.5mmである。

【分布の概要】

【世界の分布】

ユーラシア大陸北部に広く分布する。

【国内の分布】

本州, 四国, 九州。

【県内の分布】

東: 12 大宮(中西普佐子 4535, 2018-6-7), 13 豊川河川敷(中西普佐子 3300, 2009-7-5), 15 下条西町豊川河原(中西普佐子 3144, 2009-4-28)。西: 29 康生町(芹沢 93897, 2018-4-21)。尾: 45 栗栖木曾川河川敷(芹沢 88408, 2013-5-26), 48 気噴町(山田果与乃 1551, 2010-5-9), 49b 豊山町(鳥居ちる子 3342, 2014-5-1), 50 守山区庄内川河川敷(鳥井ちる子 2688, 2009-5-18), 54 富田木曾川河川敷(渡辺幸子 6246T, 2011-6-15), 56a 坂牧(芹沢 96106, 2020-5-18)。このほか, 1 豊根村富山地区からの記録もある(小林 2006)。

芹沢 88408



【生育地の環境/生態的特性】

湿地に生育し, 特に河川敷に多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【侵入の経緯/現在の生育状況】

日本への侵入時期ははっきりしないが, 昭和初期にはすでに神奈川県などで帰化していたという。近年全国各地の河川などで著しく増加し, 水辺に大きな群落を形成している。愛知県の場合, 庄内川では2000年頃から確認されるようになった。

【被害状況/駆除策と留意点】

愛知県では現在のところあまり多くないが, 庄内川水系では場所によりかなり群生している。

【特記事項】

在来のカワヂシャに比べ全体に大きく, 花はオオイヌノフグリに似て大きく青紫色である。葉縁の鋸歯は小さくてほとんど全縁に見える, この点で花がない時期でも識別できる。カワヂシャとの間に雑種(ホナガカワヂシャ)を作るが, 不稔のため遺伝的汚染のおそれは少ない。むしろ, オオカワヂシャが侵入すると従来カワヂシャに訪花していた昆虫がそれに誘引されて減少し, 一方オオカワヂシャに飛来した昆虫が多少カワヂシャにも訪花するようになって, カワヂシャの訪花昆虫相が変化し, カワヂシャと訪花昆虫との間の共生関係が崩壊することの方が心配である(森ほか 2020)。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.195. 愛知県林業試験研究推進協議会。

森 優也・芹沢俊介・柿嶋 聡・常木静河. 2020. オオカワヂシャ除去に伴うカワヂシャの訪花昆虫相の変化. 日本植物分類学会第19回大会講演要旨集 70.

【関連文献】

平帰化 p.189-190, 平新版 5 p.86, 農教 I p.300-301, N 水草 p.282.

(芹沢俊介・瀧崎吉伸)



フサフジウツギ *Buddleja davidii* Franch.

【概要と選定理由】

中国西南部原産の半常緑低木。貧栄養の乾いた荒れ地に適応し、コンクリートブロックの隙間に生えるなどしばしば路面間隙的な生態も示す。国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

高さ 0.5~2m ほどになる半常緑低木。茎は丸く多くの枝を分け、長さ 10cm ほどの被針形の葉を対生する。葉の基部には細い托葉が着く。葉の縁には多数の鋸歯があり、裏面は白い星状毛が密生する。枝先に 20~30cm になる大型の円錐花序をつける。花は筒状部が長く、先は 4 裂する。淡紫色のものが多く、紫、淡紅色、白色のものもある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は中国西南部。南北アメリカ、アフリカ、ヨーロッパ、西アジアに帰化する。

【国内の分布】

本州。

【県内の分布】

東：15 嵩山町（瀧崎 30378, 2014-7-4T）。  
西：5 小田木（塚本威彦 2556, 1997-10-11）、  
30 本宿町（本多さおり 483, 1994-7-7）。尾：  
37a 東白坂町（塚本威彦 711, 1993-8-16）、  
41b 新知（鳥居ちゑ子 2443, 2004-9-26）、43  
大谷（鳥居ちゑ子 1663, 1999-7-20）、50 守  
山区上志段味（鳥居ちゑ子 2652, 2008-8-26）。



鳥居ちゑ子 1663

【生育地の環境／生態的特性】

工事現場の資材置き場など、乾燥した荒れ地に侵入することが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

元々は観賞用の栽培であったと考えられるが、帰化している様子は栽培株の放棄や遺棄によるものには見えない。石灰岩地などに侵入すると大繁茂して、在来種を圧迫すると考えられる。

【被害状況／駆除策と留意点】

現在のところ、県内では大きな問題にはなっていない。豊橋市嵩山町の生育地点は周囲に石灰岩も多く、今後分布を広げていかないか注意を要する。長野県の戸台の河原では、河原一面にフサフジウツギが繁茂し、在来植物を著しく圧迫している。

【関連文献】

平新版 5 p.92, 農教Ⅱ p.223.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

オオバナイトタヌキモ *Utricularia gibba* L.

【概要と選定理由】

多年生で沈水性の繊細な食虫植物。在来種のみカワタヌキモ（イトタヌキモ）*U. exoleta* R.Br.（国：VU，県：EN）によく似ており，両者を同一種内の変種関係にあると考える人もいる。みカワタヌキモの自生地に侵入すれば当然競合・圧迫が考えられるが，別の場所にあるだけでも保全上困難な問題が生じる。国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

茎は糸状で底土をはい，捕虫囊をつけた地中葉で固着するが，水中を浮遊することもある。水中葉はまばらに互生し，長さ1cm程度，1~3個の裂片に分かれ，まばらに捕虫囊をつける。裂片は幅0.1~0.2mmである。花期は8~10月，高さ6~10cmの花茎を水上に伸ばし，1~2個の花をつける。花冠は黄色で直径約1cm，距は前向きで通常下唇よりやや長い。

【分布の概要】

【世界の分布】

東南アジア，オーストラリア，アフリカ，アメリカ大陸。イギリスやニュージーランドに帰化している。

【国内の分布】

記録は少ないが，おそらくところどころで逸出しているものと思われる。

【県内の分布】

東：15 岩田町水神池（瀧崎 29789，2013-8-23T），18 堀切町初立池（瀧崎 26069，2009-9-26T）。西：24 野見山町（畑佐 2249，2001-8-5），29 小呂町（杉田一記 2321，2011-8-27）。尾：37b 旭ヶ丘町（村松 222239，2004-8-14），38b 岩藤町新池（村松 26459，2012-8-10），39b 栄町（浅野守彦 2150，2009-9-16），42a 板山（林彰一 536，1990-8-14），43 久米（中井三従美 40，1988-9-1），50 守山区中志段味（高木順夫 14594，2006-10-19），51 天白区八事（浜島繁隆 s.n.，1970-9-26）。



【生育地の環境／生態的特性】

浅い丘陵地のため池に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【侵入の経緯／現在の生育状況】

食虫植物マニアの手によって，おそらくは意図的に投棄されたのではないと思われる。名古屋市南東部（天白区天白町）では1968年8月から見られたが，これが国内で野生状態が確認された最初の記録と思われる（浜島繁隆氏私信）。

【被害状況／駆除策と留意点】

みカワタヌキモは花が直径5~6mmであるが，それ以外の点では本種に大変よく似ていて，花がなければ識別は困難である。そのため，みカワタヌキモの自生地に本種が侵入すれば，選択しての除去はほとんど不可能である。また，この類の自生地が新たに発見されても，花がなければオオバナイトタヌキモかみカワタヌキモか判別がつかず，保全の対象とすべきかどうかの判断もできない。このように，絶滅危惧種に極めてよく似た外来種は，「ある」というだけで大変厄介である。

【関連文献】

農教Ⅱp.238，N水草p.293。

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）